

羽根遺跡現地説明会資料

2008年8月9日(土)



調査機関 愛知県埋蔵文化財センター

<http://www.maibun.com>

支援機関 東海アーナース株式会社

調査の経過 本遺跡の発掘調査は、県道大代音羽線に関わる工事の事前調査として、愛知県埋蔵文化財センターが愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施しています。平成20年5月から8月までの期間に、4,100 m²の調査を行なっています。

立地と環境 遺跡は、豊川市萩町羽根地内、北東から南西に約200mの範囲に広がっています。当地は、山陰川に向って傾斜する丘陵北側斜面の裾部に立地しており、現地標高が70mから80mを測ります。当遺跡周辺には、南には旧東海道の近世赤坂宿が所在し、丘陵尾根を挟んだ南側斜面末端には、後期旧石器時代の良好な資料を出した駒場遺跡や、古代の三河国分寺跡・国分尼寺跡が所在しています。

調査の概要

調査は、北からA区からE区の5区にかけて調査を行なっており、現在のところ、A・B・C区の様相が明らかとなっています。中心となる時期は17世紀頃で、近世の屋敷跡などの集落跡が良好な状態でみつかりました。

1. 古代以前 A区からは、縄文時代かそれ以前と考えられる黒曜石やチャート・熔結凝灰岩製の剥片石器類が出土しており、C区では古代の須恵器が出土しています。若干数しか出土しておらず、特に、剥片石器類は斜面上部から流れ込んできたものと考えられます。なお、A区・B区では弥生時代後期の土器が出土しており、調査区周辺に集落が存在していたかもしれません。

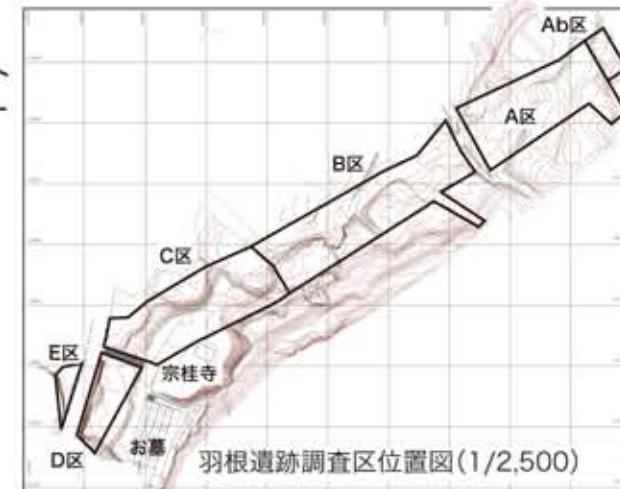
2. 中世～戦国期 A区では、地形の傾斜に沿った形で平場を形成し、崖面下には溝を配しています。平場には、掘立柱建物が存在していたようで、屋敷地であったようです。C区では、もとの地形に沿つて土地利用が行なわれたようであり、柱穴のみならず、墓と考えられる土坑も若干見つかっています。

3. 近世前半（17世紀頃） A区およびB区の東側ではこれまで存在していた平場の上に、調査区を貫く形で土盛りと側溝によって道が作されました。平場の区画は、以前の形を踏襲していましたが、平場を区画する崖面下を中心として石積み水路が作られました。平場には、柱穴がまとまって見つかっており、掘立柱建物が展開していたようで、屋敷跡と考えられます。

C区の南西側の最も高い平場では、これまで存在していた崖面の角度と違えて、盛土および石垣によって壁面を直線的に成形しています。盛土や石垣には、一石五輪塔などの石塔類が多数含まれており、さらに壁面を成形した後に、石塔類を多数廃棄した様子も見つかりました。付近からは、銅錢はじめとする古錢が見つかっています。以前に墓地が存在していたかもしれません。

B区の西側からC区の東側の低い平場では、溝で囲まれた区画内に埋設された常滑甕がまとめて出土しています。

出土遺物 陶磁器・石塔類・古錢（渡来銭・模造銭・寛永通宝）・キセルなどの銅製品などがあります。この遺跡では、いずれの調査区からも、平場の崖面を中心に、土師器皿・土師器鍋が多く出土しているのが特徴です。



C区では古銭が多数出土しています



土坑のなかで火を焚いた跡が見つかっており、火葬墓もしくは鍛冶炉の可能性もあります。

